

誰もが暮らしやすい 地域づくりに向けて

渋谷区自立支援協議会③ ～どう変える？渋谷の福祉～

昨年、ぱれっとと渋谷なかよしぐるーぷのスタッフで立ち上げた「渋谷の福祉を考える有志の会」、第1回のセミナー「自立支援協議会ってなんだろう？」(2/22)を開催後、参加者から頂いた声には地元・渋谷の抱える課題が垣間見えました。特集します。

参加者からの声

1. 渋谷の福祉はどうなっている？

2月22日のセミナーでは、「自立支援協議会」(以下協議会)の概要と、知的障害、精神障害、相談事業の各分野から、渋谷の福祉の現状をお話し頂きました。その中ですべてのお話に共通していたキーワードが「ネットワーク作り」です。協議会は厚生労働省の主導のもと、各自治体への設置を進めてきたものですが、まさにこのネットワーク作りを目的にしており、都内で早い段階で設立された協議会はすでに5年近くの歴史を刻んでいます。渋谷は23区最後の立ち上げとしてようやく昨年12月に委員会が招集され、これから本格的に、障害のある人たちの自立へ向けて、具体的な動きが始まる段階です。とは言え、私たちぱれっともすでに30年、渋谷区恵比寿を拠点に事業を展開していて、他にも渋谷区には身体的、知的、精神の3障害に渡り、数々の団体が活動を続けています。にも関わらず、セミナーで語られた各分野の話でキーワードとなったのは「ネットワーク作り」。やはり私たち福祉NPOのひとつの反省と課題として、民間レベルのつながりが今後の渋谷の福祉を左右する重要なテーマであると実感しました。実際、出席された方からの質問でも、「療育と教育現場のつながり」や「相談窓口をひとつにして総合的にニーズを集める仕組み」など、まさに協議会がその役

割の柱としている「情報の共有」や「社会資源の調整・開発」などを求める声が多く、私たちも協議会がより有効に機能するためには、現在個別に対応する形で機能している社会資源(各種福祉サービス)をしっかりとつなげることが重要との想いを新たにしました。実はこれこそが昨年来、「渋谷の福祉を考える有志の会」として集まって議論を重ねてきた私たちの動きの発端でもあったわけです。

2. 「どこに相談すれば？」

これは、セミナー当日にご参加頂いた方の声です。「相談の窓口ごとに自分の障害のある子供について同じ説明を繰り返すのは負担。ひとつの窓口の先に様々なネットワークがあれば、相談しやすい」「個々のニーズを相談の窓口でどれだけ一般の問題として真剣に取り上げてもらえるかが課題」。協議会が役目のひとつとして期待されているのは、まさにこうした窓口と福祉サービスの現場や各機関とのコーディネートです。現在は各事業所で個別に扱われている相談事例を共有し、その中で困難な事例に関しては協議会に設置された就労支援部会、相談支援部会でも検討していくこととなります。ただし、協議会が直接相談の窓口を持つのではなく、あくまでも相談支援事業を含めた地域の社会資源を調整、開発、そして評価をしていく機関である、とセミナーでもお話がありました。

どう変わる？ではなくどう変える？

1. 大切なのは日常的なつながり

渋谷区の協議会は、昨年12月に1回目の委員会が開催され、2つの部会を中心に少しずつですが、話し合いが始まってきたというのが現状です。前項で述べたような役割をしっかりと果たしていくために、私たちは何ができるのでしょうか？あるいは、渋谷区の福祉について、どう考え、行動につながられるのでしょうか。「渋谷の福祉を考える有志の会」の議論から見えてきたのは、「自分たちが変わらないと渋谷の福祉は変わらない」「誰かに変えてもらうのではなく、自分達でどう変えるのか？」という視点でした。障害のある人たちが自ら望む形で、地域で働き、暮らし、豊かな人生を送っていくためには、医療、教育、就労、地域など、様々な社会資源が日常的に支援のネットワークを結び、その情報が常に共有されていること、そして利用する側に充分伝えられていることが大切になると思います。情報や社会資源が必要とする人につながるかどうかは、障害のある人たち自身が困っていることを声に出して伝え、身近な人たちがその声をキャッチして手を差し伸べたり、代弁者になれるかにかかっています。先日のセミナー後半では意見として、もっと情報をしっかり伝えてほしいという声や今回の協議会設立をきっかけに、相談から実際に支援へと進む仕組みを統一化することへの期待も語られました。

「私たちが変わる」・・・その第一歩として、まず、障害のある人やその家族が声に出して伝えること、個々の声をしっかり把握する機会や場所を設けること、そして、民間の福祉 NPO が本腰を入れてネットワーク

や情報共有をはかることが大切で、さらには、協議会の運営事務局である渋谷区の手腕も大いに問われると思います。

2. 次回6月1日のセミナーでは・・・

「渋谷の福祉を考える有志の会」は、私たちばれっとと、渋谷なかよしぐるーぷのスタッフとの「渋谷の福祉を良くしたい!」という話からスタートしました。当初は協議会設立にあたって民間の要望をしっかりと伝えることを主眼にしていたのですが、先日の第1回セミナー終了後の議論から、ひとつの柱に「個々の声をニーズとして把握し、まとめて発信していく」というものを確認しました。そして第2回のセミナーではこの役割を受けて、「とにかくまず、皆で困っていることを共有する」というディスカッションを行なうことになりました。前項で述べた通り、キーワードは「どう変わる？ではなく、どう変える？」です。ニーズを出し合い、共有することに加えて、解決に向けて足りないものは何か、何をしなければならぬのか、といった参加者同士の議論ができればと思います。詳細は次ページに掲載いたします。

渋谷の福祉のこれから

「障害者総合支援法」が施行され、障害のある人たちを取り巻く環境は一見改善しているように見えます。しかし工賃会計から支出できる経費に制限があり、例えば家賃の問題では渋谷区のような賃料の高い地域で深刻な問題となっています。法律や制度の矛盾なども含めて、様々な声をまとめ、運動につなげていく動きがこれからの渋谷区の福祉に求められています。

NPO 法人ばれっと事務局長 南山達郎